



日章学園九州国際高等学校校長便り 長月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：心を一つに

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、

自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

学園創立70周年 令和2年（2020年）9月1日（火）校長 屋田伸仁



孟母三遷



鹿児島県では9月の始めに「いじめ問題を考える週間」を設けています。

ある調査によると年間を通して、いじめが多いのは、2学期始めの9月だそうです。

また、1年の中で自殺が多いのもこの時期です。夏休み明けで、学校の生活リズムに慣れない、心もからだもだるい、いらいらする、そういうところでいじめは起きやすいのかもしれません。

そこで、9月の開講式ではいじめ問題について話をしました。

- ① いじめは人間として絶対に許されない行為である。
 - ② 学校や先生はいじめられた子どもを守る。いじめを見た人は親や先生に知らせる。
 - ③ いじめは一人で悩まない、苦しまない。人に話す勇気を持って欲しい。
 - ④ どんなことがあっても、自ら自分の命を絶ってはいけない。
- 夢や未来、将来の幸せを考え、命を大切にして欲しい。



いじめだけでなく、友人との人間関係や勉学等の悩みは、人に相談して、好転する場合もあれば、頑張っても、頑張っても、うまくいかない場合もあります。そういうときは、転校等で環境を変えてみるのも一つの方法です。進路変更をして、心機一転を図るのです。

環境を変えて成功した故事があります。「孟母三遷」、中国の思想家孟子の母親の話です。孟子の母は最初、墓の近くに住んでいましたが、毎日葬式を見ていた孟子は遊びで葬式ごっこをするようになり困りました。それで、母は次に市場の近くに引っ越ししたところ、今度は商人ごっこで遊んでばかりいるようになりました。そこで母は、学校の近くに引っ越しました。すると、孟子は勉強を一生懸命するようになりました。この故事から、教育には環境が大事であるという「孟母三遷」の教訓が生まれました。今通っている学校が、自分の肌にどうも合わなければ、環境を変えた方がいいかもしれません。

本校は「環境を変えて高校を絶対卒業する！」をキャッチフレーズにしている進路変更者のための再チャレンジ校です。実際、本校に入学して、その後の生き方を大きく変えた卒業生も少なくありません。もうひとつ、英語のことわざを紹介したい。



A rolling stone gathers no moss .

「転石苔を生ぜず」こちらは、二通りの意味があります。環境を変えないで、頑張り続ければ苔が生じる。反対に、環境を変えれば苔は生じない。苔を貴重なものと見るか、サビやカビのように見るかで意味が分かれます。「石の上にも3年」と忍耐力で頑張り通すか、「心機一転」して新鮮な気持ちで頑張るか、どちらの人生にも価値があるように思えます。結局、人生は「選択力」で決まるのかもしれませんね。



漢字 VS カタカナ



明治以降、西洋文化を取り入れた日本は最初は英語を漢字に訳して使っていましたが、ある頃から英語をそのままカタカナ読みで使う方が、便利だとわかりました。たとえば、身の回りのもので、テレビ、テーブル、ベッド、カーテン、ライト等は、カタカナでも不自由ありません。別に漢字に直す必要はありません。しかし、中国語は漢字しかないので、英語や日本のカタカナを漢字に直さなければならないので、大変です。

さて、前月号の学校だよりで出したスポーツの中国語の答えは次のとおりです。

- ① 足球（サッカー）② 棒球（野球）③ 网球（テニス）④ 篮球（バスケットボール）⑤ 乒乓球（卓球）

サッカーは足で蹴るので足球。なるほど、漢字を見ると、スポーツのイメージが掴めます。中国人の漢字造語力はすごい。反対に、カタカナに頼り過ぎる日本人は漢字造語力が劣化しているのかもしれません。